

1 作品名 2 作家名(敬称略) 3 作家のコメント



1 Ceramic Cylinder for Images of Water Level

3 扇沼のわきの林の中に6本の陶の筒を立てました。筒は内側の水平面に水位によってあるイメージを形づくります。例えば筒の1つは上から、(円)ホワイト・マウンテン、サクシフリジ、舞子横顔、人胎児4週、耳かたつむり、レール断面)となっています。



1 風天

3 木立の中に風が舞い降り、また立ち去ってゆく。寒さにふるえる木々や鳥たちは、まるで何事もなかったかのように素知らぬ顔をしているけれど、通り過ぎる風の痕跡はいつも新しい風景を描き続けているのだ。



1 雨引

3 自立と依存のはざままで立つ地中と地上をつなぐ一本の線。一月の雨引に山の神が降りてくる。翌日、朝もやの中で見た御神木はあぜ道の脇に立っていて、言いようもなく高く美しく、その背を押しにくれた。



1 アマビキドン

3 見えないものが見えてくる、現われては消えてゆく、人はそれを幾度となく経験する。長い時間と力で熟成されて現出するものは、消滅の時も多くの光の欠片を残す。そして新たなアマビキが生まれる。



1 水守

3 最近、沼の近くで制作しているのを機に、水をイメージした作品を作ってみた。制作している内、自刻像を彫つてるように感じて来た。見通しが良いように、心の窓を開けてみた。



1 形象

3 目前の塊にひたすら鑿を当てハンマーで打ち削る作業です。一打ち一打ち僅かな石片しか削れません。こんなことで何になるのか、何ができるのだろうか、けれどじつじつと根気よく繰り返すうちに石が何かを帯びていくように感じることがあります。



1 Triangulated Circle

3 高い空から木立の奥深くまで光が差し込み、足下の落ち葉を照らす。生い茂った緑に阻まれて夏には届かなかった光が、林の隅々まで行き渡る。冬の雑木林は光に満ちていた。ステンレスの円環を設置することで、光を強くはつきりと感じたい。



1 記憶の領域 2011 - F00

3 かつて近隣の人々にぎわったであろう建物の一隅。いまは落ち葉が降りしきり、やがてしんと静まりかえった冬を迎える。そこに佇む一つの生命体。いったい何者だろう？



1 循環 包量

3 石の塊を割り、外から内、内から外へと彫り込んで行く。再び構築した形の内側には、空洞が生まれる。石の裏の間に、澄んだ冬の光や空気が巡りはじめると。



1 月臨環「ニール」瞑想のトンネルII

3 とてもよく手入れされたクスギの林である。分け入って木々の間を散策すると、妙に懐かしさがこみ上げてくる。この懐かしさはいったい何なのだろう。私は遠い記憶をたどるために、瞑想のトンネルを置くことにした。



1 reflections

3 折々の陽の運行は、つきつめれば地球の自転と公転という、2つの回転運動の結果で、輝きや陰影というものもその差す角度に因っています。そのような「陽光の移ろい」をイメージしてみました。



1 黒体 2011

3 地表、1.29mの圏界面。

2 村井 進吾



1 低い冬

3 犬と散歩をしていると普段より視線が下を向くせいで、色が、色々と気づかされる。冬は無言の会話を交わすのでしようか。私は桜の木と作品の姿を想い浮かべます。冬時の青空の下：雨の日：曇りの日：私が一番見たいのは雪が降り積もった姿です。



1 寒花

3 淋し気に一本の桜の木がある。その周りに作品を置きたいと思つた。桜の木とこの作品は無言の会話を交わすのでしようか。私は桜の木と作品の姿を想い浮かべます。冬時の青空の下：雨の日：曇りの日：私が一番見たいのは雪が降り積もった姿です。



1 重力の森

3 「そして林は、度十のいたときのおり、雨が降ってはすきとおる冷たいしずくをみじかい草にボタリボタリと落とし、お日さまが輝いては、新しいきれいな空気をさわやかに吹き出すのでした。」宮沢賢治「度十公園林」より。林へのオマージュとした作品です。



1 Big roll paper

3 一昨年、トイレレットペーパーの形を拡大して画廊で発表しました。その形をもっと大きく、比率を変え作り直しました。隣の池には夏一面に蓮の花が咲きます。空と林とロールペーパーあまり関係ありませんが、並んだ粗大ゴミと云う様でしょうか。

2 和田 政幸



1 鳥はその時飛びたつたよ、ヘルツクさあーん。

3 桜の木の下、あずまやにある大きな鳥カゴ。誰のものかと思うけどそんなことはどうでもよい。ただ、さつき鳥が飛びたつたのを見た。今あるのはそのまんまの鳥カゴと私。何もなかったかのように佇んでいる。



1 私は逆立ちする

3 逆立ちの苦手な人に逆立ちしてもらった作品です。両腕を上に伸ばし、天井を支えるように立ってくださいます。写真も撮られるように覗き窓をつけました。



1 Book box is the color of wind

3 この黒い箱は、「風の色」を作る装置です。あなたは、何色の風が好きですか。隙間から覗き込み、上から眺めて、「風の色」を見つけて下さい。あなたの「風の色」が、きつと見つかるはずですよ。



1 雲煙過眼／枝宮のための篋

3 高久神社の境内をよく見ると大小様々な摂末社がある。いずれかに地主神も祀られているはずだが、今では一つとして建立の時期も由来も判らないと聞いた。まして、私がここに彫刻を作った事など人の記憶からすぐに消えて去るだろう。儂く尊い今を共有したい。

2 戸田 裕介



1 気になる木

3 器に満たして木に生らしてみたら、気にならなくなった。



1 Forest 2011 - Planet

3 削岩機(ドリル)で石に穴を開けていき、石の中心で繋がっていきます。惑星の一部だった硬い石は、穴が貫通する度ごとに、段々と呼吸を始めます。その硬い石の中で生き返った森のカタチを、ひたすら発掘するのです。



1 観覧車

3 観覧車には、特別な思いを感じている。遠方からはランドマークの役割を果たして、ゴンドラに乗れば外界を眺める装置となる。ゆっくり回転しながら、上り始めると気分はすこしづつ高揚して、下り始めればそこはかない儂さを感じさせるのである。



1 Tension. 風を包む

3 羊毛の繊維が絡みあい、広がって、まるで細胞が増殖するように一枚の布になる。やわらかく形のない布は、壺を包めば壺の形に身体を包めば身体になる。何にでもなる可能性があるこの布を、引っ張り、ねじり、結んで、雨引の里の「風」を包んでみた。

2 佐藤 比南子